Kalafina Harmony Magazine
2017 Summer #01
Kalafina Harmony Official Fan Club

Kalafina Harmony Magazine

2017 Summer #01

Content

08_Kalafina interview

18_Kalafina "9+ONE" Live Report

22_Kalafina "9+ONE"
Backstage & behind the scene shot

23_Pamphlet Shooting Making Photo

24_Wakanaと行く！ サメ捕獲の旅！ 第1回

26_Keikoの美活 Vol.1 キックボクシング編

28_ブックコンシェルジュ
Hikaruの部屋へようこそ 第1章

30_infomation

Staff

Photo ⇒ 大川晋児 (P.01 ~ 17)、キセキミチコ (P.18-21)、
Tomoki Hirokawa (P.26 ~ 27)
Styling ⇒ ヤマモトヒロコ (P.01 ~ 17)
Hair & Make-Up ⇒ Daisuke Mukai (P.01 ~ 17)
Art Direction ⇒ 鶴羽高章
Text ⇒ 大西智之 (P.18-21、P.23)
Edit ⇒ 芳崎志保

Kalafina
interview
記念すべき初号の始まりは、3人集合の撮りおろしフォト&インタビュー。
ファンクラブが"Harmony"という名称になった理由や、
Kalafinaが会報でやってみたい企画、
先日終了した全国ツアー『Kalafina "9+ONE"』で感じた
それぞれの"+ONE"について——などなど、
じっくりたっぷり語ってもらいました。
"Harmony"ならではのリラックスした雰囲気が伝わりますように……。

基本的に皆さんKalafinaやKalafinaの音楽を知ってくれているのかなと思うと、とても嬉しいですし、励みになります

◆会報Harmony Magazine、いよいよスタートとなりました。
3人　わー!(パチパチパチ)
◆初号ということもありますし、記念すべき最初の企画として全員インタビューをお届けしたいと思います。今回、Kalafinaのファンクラブが立ち上がったことについて、またこの会報について、どのような想いを持っていますか?
Wakana　Kalafinaとして9年間活動させていただいた中で生まれたファンの方たちとの繋がりが、ファンクラブという場でどんな形にしていけるかな、とワクワクしています。これまでも周年記念ライヴとか、チケット先行販売などの場で感じることができていたんですけど。これから私たちからも会報という場で発信していけるから、それがすごく楽しみ。このインタビューを読んでくれている方は、基本的に皆さんKalafinaやKalafinaの音楽を知ってくれているのかなと思うと、とても嬉しいですし、励みになります。せっかくなので、ここでしか得ることができない楽しさや嬉しさを皆さまに提供できたら、そして自分自身も楽しめたらいいなって思ってます。
Hikaru　普段皆さんと繋がれる場所というと、ライヴ、ブログ、ラジオがほとんどなんですけど、そういった場所だとなかなかお話する時間を長く取ったりできないんですよね。すると、きちんと伝えたいことは伝えられるんですけど、そこから一歩二歩と掘り下げたお話をする時間はなかったりして……。なので、この場所で皆さんに向けて発信するものは、広く多くの人に届けたいという言葉とは違ってくるのかなって。今、これを読んでくれている皆さんへの言葉として、たくさんお話していけたらいいなと思っています。会報はソロ連載コーナーも作ったので(笑)、そこでじっくりHikaruのインドア生活を公開していけたらいいな(笑)。そうやってちょっとずつみんなをこっち側に引き込もうかな、と!そんな企みです(笑)。
Keiko　企みなの!?　怖いよー(笑)。
Hikaru　フフフ。徐々にインドア生活の楽しさを伝えていきたい(笑)。
◆1回目からアツく楽しく展開していますから、ぜひそちらも楽しんでいただきましょう!そしてKeikoちゃんは?
Keiko　さっきHikaruも言ってたけど、ライヴのMC、ブログ、リリースイベントなどの場は、"初めましての方もいらっしゃる"という前提があるので、"Kalafinaとは"って説明をひとつ必ず入れる必要があるんですよね。それは広くいろんな方に届けていくためにとて

ファンクラブの名称を、私たちが一番大事にしている「Harmony」にして、いろんな意味で“Harmony”を大切に思っているんだよ、という想いを込めました

も大事なことなのですけど、ここではその説明を飛び越えた地点からすぐに会話が始められる、その深さがいい(笑)。ここから2個飛ばして、3個飛ばしていける場所にしたいなって。どんどんみんなとの距離感を縮めていきたいなって思っています。

◆KalafinaとKalafinaを応援してくれるみんなが深く繋がれる大事な場所。

Keiko　そう。そういう気持ちがあったので、ファンクラブの名称を、私たちが一番大事にしている「Harmony」にして、いろんな意味で“Harmony”を大切に思っているんだよ、という想いを込めました。

◆とてもよい名前ですよね、Kalafinaならではの。

Keiko　シンプルにしたかったんだよね。

Wakana　これからはインタビューとかで、「私たちKalafinaが大事にしているのはハーモニーなんですけど……あ、ファンクラブの名前もね♡」って言えますよね!

◆えっ、そこに差し込んでいくの?(笑)

Wakana　実はこの前のフォーラムのライヴの時、「春を待つ」の楽曲紹介をするくだりがあったんですけど、「この曲はハーモニーがない楽曲なんです……ファンクラブはハーモニーなのにね♪」って本当は言いたくて言いたくて!

Keiko　ちょっと、嘘でしょ(笑)。

◆まずファンクラブイベントとかでやってからにしましょう(笑)。

Wakana　そうね、「ファンクラブはハーモニーなのにね!」「そうだねー!」ってみんなが返してくれる環境の時に満を持して言います(笑)。

Keiko　そうね、そのやり取りはもうちょっとあっためておいて(笑)。で、こんな感じで、メンバーみんなでやっぱり大事にしたいのは「ハーモニー」だね、っていうところから命名したんです。

◆すんなりと?

Keiko　ちょっとだけ3人で考えたけど……スッと決まったよね。

Wakana　メロディとか音楽とか、いろいろ考えたね。でもしっくりきたのはハーモニーだったよね。

Hikaru　確かに、他の案も音楽的な言葉ばっかり候補になってましたね。

Wakana　その時に、「私たちに大切なものはなんだろう?」という話になったんだよね。それで「ハーモニーだと思う」っていう答えが出てきて、この名前しかないね、って。

◆これから先、会報で届けていきたいことなどはありますか?

Keiko　好きという情報は発信しているけ

だいたい1曲目は緊張してプルプル震えていることが多いんですけど(笑)。今回は笑顔で始めることができたんですよね

ど、そこまで深く語ったことはないなぁということを掘り下げる場所にしたい、という想いがあります。それで一人ひとりのパーソナルが見えるような連載ページを作りました。

◆はい、見事に3人それぞれのパーソナルな魅力にあふれたページに仕上がりました!(P.24~P.29に掲載しています)

Keiko　楽しんでもらえるといいな! あと、そういう企画の3人バージョンもやりたいね。

Hikaru　それいいですね!

Kieko　たとえば、3人でハーモニーを積み上げる作業をやってるところを密着レポしてもらったりとか、どうかな?

◆それは貴重! とても興味あります。

Hikaru　ハーモニーが形になっていく経緯、裏側をお届けできたら楽しいかも。

Wakana　リハーサルの様子とかも楽しんでもらえるかもしれない。

Keiko　その時の写真と、あと、私たちがなにをしゃべっているのかを会話形式でズラーッと入れて。

Hikaru　専門用語には注釈つけてもらって(笑)。

Keiko　梶浦さんがサウンドで核になるものを作ってくださっているから、私たち3人の音作りというのは、="ハーモニー作り"になってくるんです。そのハーモニーっていうのは、言葉作りでもあり、音符作りでもあって。いつも同じ作業を繰り返してやっているようで、楽曲によって、時々によって、全然違うんですよね。音から攻める時もあれば、言葉から攻める時もあって。パートごとのパーソナルでも解釈や届け方が違ってくるものなんです。そういう作り上げていく過程って、これまでは見せる場所も機会もなかったから、考えたこともなかったけれど、会報であればそういう私たち作り手側の様子を楽しんで受け取ってもらえるかもしれないね。新曲でのハーモニー固めの時とかいいかもね。

Wakana　新曲といえば、先日、ニューシングル「百火撩乱」のカップリング曲をレコーディングしたんですけど、一人ひとりの歌声がしっかりと聴き取れる仕上がりになっていたんです。それは、単に楽譜上の音程やリズムを正確に歌っているからということだけではなくて、いつにも増して歌詞や言葉を表現しようという思いで、一人ひとりが歌っているからこそ、個性が感じられる仕上がりになっているんじゃないかなと思ったんですよね。会報では、そういう本当に細かいところの変化や気付きまで、読んでくださる方に届けていけるといいなぁ。カップリングの歌入れや音の積み方の話までは、なかなかラジオなどでじっくりと話せる時間がないですし。

◆楽しみにしています。そして、全国ツアー『Kalafina "9+ONE"』、無事に終了いたしました。国内13公演でしたが、いかがでしたか?

Wakana　毎ステージ毎ステージ、あっという間でしたね。特に本編中、衣装替えしてから後半はすごい勢いで!

◆ブロックごとにテーマを感じるセットリストも印象的でした。

Keiko　9年分の楽曲を届けたかったから、セットリストはすごく考えました。前半戦は"聴くこと"を徹底して、集中して聴いてほしいなと思っていて。アッパー系の楽曲も織り交ぜていたんですけど、感覚的には、立ち上がって聴いてくれる人と着席して聴いてくれる人が半分半分くらいだといいなぁという気持ちでした。そういう想いから、これまでのセットリストに比べると、前半と後半で変化を付けた構成にしたんですよ。そういう試みは今回初めてだったんだけど、"Kalafinaの9周年ってなんだろう?""みなさん、きっと私たちのハーモニーを聴きに、音楽を楽しみに来てくれているはず。だったら聴かせるライヴを基本に考えよう"というのが根底にある気持ちで。そこを軸にして選んでいったセットリストでしたね。

Hikaru　今回、「五月雨が過ぎた頃に」で始まるツアーで。この曲は歌うときに、お客様と目を合わせながら始まるので、緊張感はあるんですけど、ちょっとやわらいだ気持ちからスタートできたというか。お客さんと一緒にスタートできたように思います。だいたい1曲目は緊張してプルプル震えていることが多いんですけど(笑)。今回は笑顔で始めることができたんですよね。

◆たしかにHikaruちゃん、1曲目が始まった時点でニコニコ笑顔だったように思います。

Hikaru　そうなんです(笑)。そして2曲目が「misterioso」なので、よりいっそう笑顔になっちゃう。

◆1~2曲目ですでにHikaruちゃんがうれしそうに飛び跳ねていたような……。

Keiko　そう、Hikaruはピョンピョンしてた(笑)。

Wakana　私からも見えてた、視界の端っこで(笑)。

Hikaru　楽しくて♪　そうやって楽しくスタートしてから、落ち着いて「Lacrimosa」という。初期のKalafinaもみなさんと味わい

会報では、そういう本当に細かいところの変化や気付きまで、読んでくださる方に届けていけるといいなぁ

絶対にどこかで出会っている
みなさんと一緒に作るライヴ、というね。
そこから始まりたかったんです

たい、というブロックでしたね。いつもより楽しく会話するライヴ、というイメージがありました、Hikaruの中では。

◆緊張というよりは……。

Hikaru 「今日はどんなライヴになるんだろう? どんなお客様なんだろう?」というドキドキの探り合いがなくて、最初から「みんなで一緒に行くよ!」という心の繋がりを強くしてスタートできるライヴだったかなって思います。

Keiko 「五月雨～」ってそれまでファンクラブライヴでしか歌ったことがなかった曲なんだよね。

Hikaru それをオープニング曲でやろうという時点で……。

Wakana ファンクラブに入ってくれている方というか、応援してくれているすべてのお客様へ、という気持ちは意識してたよね。

Keiko どこかでちらっと言ったことあるんだけど、今回の『"9+ONE"』では、初期から応援し続けてきてくれた方にまず喜んでいただきたい、というテーマが私たちの中にあって。なので、六本木morph-tokyoでやっていた曲たちをどうしても入れたかった、「Kyrie」とかね。

◆終盤のアッパーゾーンに入っていましたよね。

Keiko ここ最近の曲たちとの相性を考えながら、いろんな置き所を探っていったよね。

Wakana スタジオでどの並びが一番気持ちが高まるか試してみたり。

Keiko いろんな方に意見を伺って、客観的にも見て決めました。まずは昔からのファンの方を大切に、というのを踏まえた上で、最近私たちの音楽を聴いくださっている方にも両方満足していただきたかった。最後のアッパーブロックは粘りに粘って決めましたね。だからこそ、始まりの1曲目は、これまではファンクラブでしか聴けないよ、と言っていた「五月雨～」を全国ツアーで全員に届けたかった。いつものツアーとは違った気合いでもありました。

◆その「五月雨～」では、過去曲のジャケット写真がバックスクリーンに映し出されるという演出がありましたね。

Wakana 自分たちでも「こんなにあるんだ!」って驚きましたね。

Keiko 2番の歌詞で「過ぎて行く日々の中に 置いて来たもののため」という一文があるのですが、背景にそうやって過去のジャ

ケット写真が通り過ぎていく様子が映し出されているわけですよね……。きっといろんなところで、いろんなものを置いてきたことが、聴いてくれているみんなにあって。
Hikaru　みなさんお一人お一人にリンクするものがあったんじゃないかな、って思います。
Keiko　歌っていてグッとくるものがあります。来てくださっているお客様とどのタイミングで私たちと出会ったのかはわからないので、1枚目から最新シングルまですべて出しました。絶対に、どこかで出会いのタイミングがあると思ったので。それを伝える1曲目にしたかった。絶対にどこかで出会っているみなさんと一緒に作るライヴ、というね。そこから始まりたかったんです。
◆自分とKalafinaのストーリー。
Wakana　"過ぎていく日々"というのは、みなさんとKalafinaの日々だったのかもしれないし、もっとパーソナルなこと、就職した、子供が自立した、出産した、とかなんでもいいんですけれど、ご自身のヒストリーと照らし合わせて聴いてくださってると思う。だからなのか、自然に手拍子に重みが出てくる2番、みたいな(笑)。
◆人生の重みが乗っているんですね。
Wakana　最終的に、ステージ中央でKeikoを真ん中に挟んで、私が上手側、Hikaruが下手側に向いて立つ形になるんですけど、みんなの手拍子が噛み締め系になっている気がするんですよね。だから自然と私の顔も噛み締め系になっちゃう(笑)。
Keiko　どんな顔よ〜、それ今度カメラで抜いてもらおう(笑)。
Hikaru　私も見たいな。そっち向いて歌おうかな。
Wakana　それおかしいでしょ(笑)。それにフォーラムではちゃんと気を付けてたから大丈夫。
◆気を付けてたって(笑)。では、今回、『"9+ONE"』を通して、ご自分の中でなにかしらの"+ONE"、また、ひとつじゃなくとも、"+α"の何かを摑めたなぁという実感はありますか?　なかなか言葉にするのは難しいと思うのですが……。
Wakana　"9+ONE"のツアーを始める前、みんなでどんなツアーにしようか?って話し合っていく中で、「10周年に向かうための1年として盛り上げていこう。9周年だけど、数字上の"9"だけじゃないものがたくさんあっ

今回のツアーでは今までの
歌い方を見直して
一新して臨む、という挑戦をしたんです

たからこその9年間だよね、という意味を込めて、"9+ONE"と付けたんです。そうやってスタートしてみて、今、強く感じているのは、"+ONE"は"お客様"なんだなということ。その"+ONE"がずっと応援し続けてくださったから、9周年を迎えられて、来年10周年を迎えることができるわけで。当たり前で、一番大事なことなんですけど、改めて感じることができました。日本全国10都市で13公演ができるというのは、本当にありがたいことだなって。

Keiko　その人、たったひとり。それが"+ONE"であり、その"1"がものすごく強い力を持っているんだなって思ったツアーでした。"1"が発信していくんですよ、隣りに、そして周囲に。"1"が立ち上がるだけで周りに何らかの影響を与えていくんですよね。人ひとりの力なんてたいしたことないよ、じゃなくて、ひとりの力が一番偉大だぞ、という。どのひとりでも。自分自身も。自分がこうだ！って感じたことは言わなきゃいけなかったり、伝えたり、表現するべきだと思いました。「into the world」の歌詞の中に"夢の中へは一人で行くよ 誰も側には立てないね"とあるんですけど、なぜひとりなのかというと、その"1"に強い力があるからで。私自身も今のKalafinaチームの中のひとり、音楽で繋がったみんなの中のひとりとして、ちゃんと表現していきたいなって思ったんです。それは、ツアーでお客さま一人ひとりを観て、感じたこと。それを大事にしたい、それが私の"+ONE"だと思いました。

◆"1""1""1"……が集まって「みんな」になっているんですよね。

Keiko　そうなんですよね。一人ひとりにありがとう、という気持ちです。

◆はい。Hikaruちゃんはどんな"+ONE"を感じましたか?

Hikaru　個人的な感想になってしまうんですけど、今回のツアーでは今までの歌い方を見直して一新して臨む、という挑戦をしたんです。特に「oblivious」という曲で顕著にそうだったんですけど、それに対して、決断も覚悟も必要で。聴いてくださる皆さんが受け入れてくれるのか、という不安もありました。

◆「oblivious」はリリース時にHikaruちゃんはまだメンバーではなかったということもありますし、特別な楽曲なのでは?

Hikaru　そうですね。自分があの曲を初めてKalafinaとして歌ったときも同じ気持ちでした。自分が参加していない曲を歌うことへの気持ちのハードルが高くて……。これまでは"Hikaruらしさ"というか、自分として歌わなければ意味がないんだ、と思っていたところを、ひとつ見方を変えて、"楽曲として"取り組むことができるようになったんです。1曲の中での役割としての認識ができたというか……。そうやって歌い方や解釈がこれまでと違ってきている楽曲もあって、「oblivious」はその代表格のような感じになりました。

◆9年やってきた今になってもそういう試みや発見があるんですね。

Hikaru　そうなんです。そして9年やってきた今だからこそ、という部分もあると思います。自分の技量が足りない部分もまだまだあるんですけど、そういうところに、ここから先も挑戦していかなきゃな、という気持ちにもさせてもらえたツアーでした。それが自分にとっての、このツアーで感じ得ることができた"+ONE"の一つでしたね。

◆10周年への布石のためだけの9周年ではなく、それぞれが"9+ONE"そのものから、大切ななにかを受け取ることができたツアーだったんですね……。さて、そんな中、早くも次のツアーやライヴやイベントが発表されています！

Keiko　はい！　発表しちゃいました！(笑)「Kalafina Acoustic Tour 2017 ～"+ONE" with Strings～」と「"Kalafina with Strings" Christmas Premium LIVE 2017」で、また全国各地にお邪魔しますよ～。

Wakana　前回よりまた公演数が増えましたね。嬉しいです。

Keiko　ありがたいことに前回初めて訪れて今回また再訪できるホールもあれば、初めて伺う場所もあったりしてね。今回の『Kalafina with Strings』は、2011年から積み重ねてきたアコースティックライヴでの集大成をお見せしたいと思っています。

◆2011年にアコースティック形式のライヴツアーが始まって、規模が拡大していってる感がありますよね。ついこの前、初めて全国を廻るツアーにできました、という状況だったような……。それがあっという間にここまで細かく廻るツアーになりました。

Keiko　もうね、お客さまがこの形態のライヴが大好きです！って言ってくれるんです。もっとやってほしいです、って。その声が嬉しくて嬉しくて。

Hikaru　皆さんが求めてくれるのであれば、日本各地、可能な限り廻りたい！っていう気持ちです。

Keiko　実はバンドの皆さんと一緒に廻るツアーと同じくらいの分量で、アコースティックライヴもお届けしたほうが喜ばれるんだなって、皆さんのアンケートを読んでいて思ったんです。今まではアコースティックはちょっとスペシャルなイメージで受け取っていたんですが、両方同じくらい好きでいてくれるんだ、ということを知ることができて。

Wakana　私たちもバンドスタイルでのライヴハウスツアーやアリーナツアーも大好きなんですけど、アコースティックライヴでは今まで行ったことのない、知らなかった会場で歌わせていただける機会も多くて、それも嬉しい。全国に良いホールってたくさんあるんだなぁって。それに、ホールって1200～2000人くらいのキャパの会場が多いんですけど、距離感が近いんです。お客さま一人ひとりのお顔をしっかり観て、歌を届けられるから、そう感じるのかもしれないですね。

Hikaru　すごく近く感じる！

Wakana　お客さまの年齢層もびっくりするぐらい広いよね！　おじいちゃまおばあちゃまも来てくださって。

Keiko　WakanaのMC聞いてニコニコしてくれてたりするよね(笑)。

Wakana　そうなんですよ！　あったかいなぁ～って。

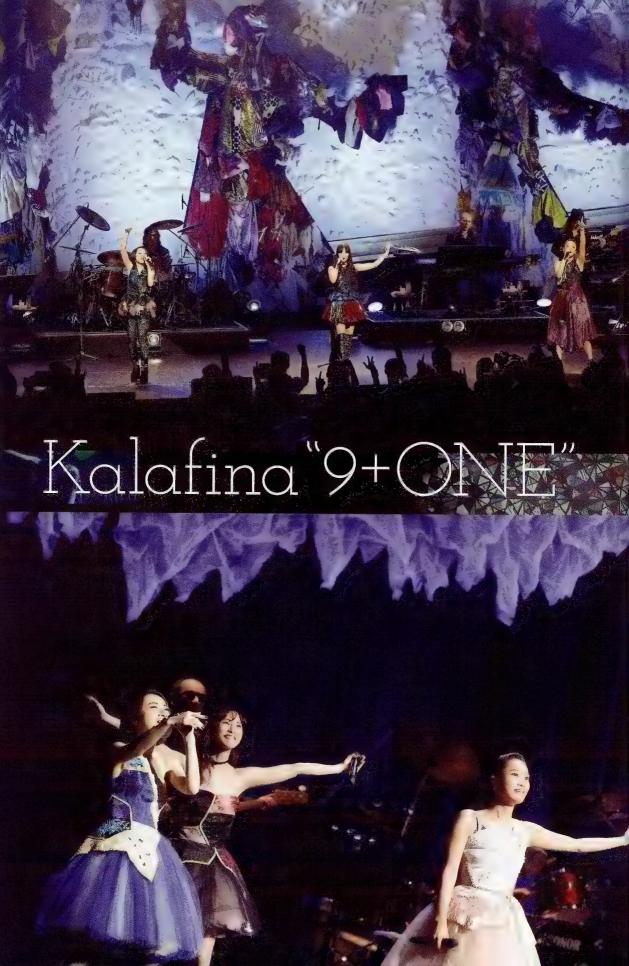
Hikaru　ご自身のお孫さんを見つめるような優しい眼差しなんですよ。

Keiko　2017年はお客さまが喜んでくれることしかやらない1年にします、と掲げているんですが、きっと喜んでいただける内容になると思います！

Hikaru　皆さんが望んで、声にして下さったことが、公演数を増やすことに繋がったこともその一つかも。

Wakana　北から南まで、皆さまのお近くにKalafinaが歌いに参りますので、ぜひ観に来てくださいねー！

Kalafina "9+ONE"

Wakana
Keiko
Hikaru

01.五月雨が過ぎた頃に
02.misterioso
03.Lacrimosa
04.明日の景色
05.光の旋律
06.未来
07.oblivious
08.storia
09.五月の魔法
10.consolation
11.to the beginning
12.春を待つ
13.君が光に変えて行く
14.メルヒェン
15.Magia
16.kyrie
17.heavenly blue
18.One Light
19.into the world
ENCORE
20.音楽
21.blaze
22.symphonia

Kalafina "9+ONE"

2017年6月3日(土) 東京都·東京国際フォーラム·ホールA

Text ⇒ 大西智之 Photo ⇒ キセキミチコ(KISEKI inck)

開演前。ステージをシースルーの紗幕が覆っている。

東京国際フォーラム·ホールA、2daysの1日目に当たる6月3日。4月からスタートした『Kalafina "9+ONE"』も後半戦に入っていた。

ほぼ定刻に客席の電気が消され、「五月雨が過ぎた頃に」をアレンジしたSEが鳴り始める。少しリバービーで浮遊感が与えられたその幻想的な3声のハーモニーによるSEが流れる中、これまで発表してきた曲のタイトルが紗幕に投影されていく。そしてそれらのタイトルがひとつに集まり、"9+ONE"のロゴになった。

ライトが降り、紗幕越しにメンバーを浮かび上がらせる。同時に、「五月雨が過ぎた頃に」の温かなミドルテンポの演奏が響く。

Wakanaは白、Keikoは黒、Hikaruはブルーを基調とした衣装を着ていた。

ステージ奥ではリリースしてきた作品のジャケットが映し出されている。

そんな中、クラップを誘導しながら3人は丁寧に言葉を乗せ、ハーモニーを紡いでいく。

増えていく手拍子の音、一人ひとりが口ずさみ重ねる歌、バンド演奏とWakana、Hikaru、Keikoの歌声。それらが奏でる、"君と声を合わせたらもっと遠くに響いた"のハーモニーは、希望と未来を携えていた。

ライヴは「misterioso」からテンポを上げ、穏やかな熱を帯びながら加速していく。場内を飲み込んでいく。

Wakanaが言う。「私たちの9年間の音楽をたっぷりと楽しんでいってもらえたらと思います」。

「2Fのみなさん、奥の方まで見えています。ライヴはみなさんと会話する場所。お話する時も音楽の中でも、お一人お一人と目を合わせて、会話していこうと思っています」とHikaru。

そしてKeikoがツアータイトルについて話す。

「今夜この時間を通してみなさんといろんな"+ONE"を作っていきたい」。

国際フォーラム·ホールAにWakanaの透明度の高い声が響き渡る。スローテンポでしっとりと届けられる、曲は「明日の景色」。静かな哀しみの深淵や、人としての性(さが)への戸惑い、そんな感情から湧き上がる涙を通して見た未来が次第に開けていくさまを、歌とサウンドが描く。続く心の痛みをこらえながらステップを踏むようなリズムが弾んだ「光の旋律」では、Hikaruが歌声で表現する澄んだ心を持つ主人公の、未来を求める強さをWakana、Keikoのハーモニーが運んでくる。

さらに「未来」は、演奏とハーモニーの確かなリズムと抜け感、歌う3人の曇りない笑顔が光溢れる未来の世界を連れてくる。曲の最後で、Wakana、Keiko、Hikaruが目を合わせて、声を重ねる。ハーモニーの余韻が場内に溶けていき、多くの拍手がステージに贈ら

れた。

Wakanaの歌声は安定し、芯が1本通っている。Keikoのヴォーカルは時に包容的で時に力強い。Hikaruは声色や音の抜き際のニュアンス、そういった細部にまで表情を付け楽曲世界を彩っていく。9年間スキルと個性を磨いてきた、質の違う三様の歌がひとつのメロディを紡ぎ、様々な感情と未来を呼び込んでくる。

その歌の魅力に深く浸れたのは、Kalafinaが2011年から重ね、育ててきた"with Strings"スタイルでの楽曲である。

それは、Kalafina史上初、歌のハーモニーが存在しない楽曲となった「春を待つ」だった。鍵盤に指を落とすニュアンスまで感じられる櫻田泰啓のピアノの伴奏に、そっと柔らかな歌声を乗せるKeiko。その繊細ででも心をほっとさせる春の風のようなヴォーカルをHikaruが引き継いで温かなものへと膨らませ、Wakanaが強い"信じる"という想いへと昇華していく。それは新しい声の表現へと踏み出した3人を感じられる歌だ。

再びピアノ1本とKeikoの歌で入った「君が光に変えて行く」は、途中からバンドが入り、曲が広がる。それでも、呼吸を読み合った歌と演奏はどこかパーソナルな響きを纏っていて、まるでひとりの人物が心地良いまどろみで見ている夢で流れる音楽のようだ。

一度メンバーが去ったステージでは、バンドによるインストが流れていた。そして、重厚なシンセと、スリリングなアコースティックギターの音色が響き始め、ステージ奥では、9年間で着てきた衣装で形作った巨大な人型のオブジェが3体露わになる。フロアタムの深い音が轟き始め、オブジェと一体化していたメンバーが前へと出てくる。曲は、最新シングルから「メルヒェン」。ダークな世界観がホールいっぱいに広がり、3人の歌声が常識を歪める摩訶不思議な世界へとオーディエンスを引き込む。続く「Magia」では、下ろされた紗幕に投影される深い森や、幾何学的世界の中でWakana、Keiko、Hikaruが歌っているという、紗幕と照明と映像による視覚効果を使った幻覚ワールドを作り出した。

ディープにそして熱を発しながら、ライヴは本編最後へと行き着く。

「まだ自分が足を踏み入れたことがない、見たことがない世界に行く時はいつもドキドキするし、勇気もいる。でも、Kalafinaは3人いるから、誰かが躊躇していると、誰かが背中を押してくれる。そして最後に決めるのは自分」。

そんなKeikoのMCから入った「into the world」。雄大な響きの中で歌われる、地図のある旅は終わりこの先に広がるのは海しかない、という場所に立った心境。それは道なき道を梶浦由記さんと歩いてきた3人の姿そのものであり、10年とその先に向かうKalafinaとも重なる。強く、凛々しく、Wakana、Keiko、Hikaruは旋律と対旋律を絡ませて音楽を織っていく。その姿を見ながら、自身の心と対峙する内面の旅と、未知の世界へ挑戦していく旅とをこれからも3人は続けていくんだな、と思った。

そしてアンコール。このツアーで受け継がれてきた、LEDライトを観客が灯す中、「音楽」が披露される。視界いっぱいで揺れる光を前に歌うKalafinaの姿は、この先の未来という大海原を進んでいるようにも見えたし、オーディエンス一人ひとりが彼女たちの航海を照らしているようでもあった。

＊

Kalafinaは、止まることなく先へと進む。

でもその未知への航海は、決して暗闇に支配された世界ではない。応援する彼ら、彼女らがいるのだから。

Kalafina "9+ONE" Backstage & behind the scene shot

全国各地での裏側をちょっぴりご紹介！ チームKalafina、いつも楽しんで過ごしています♪

Pamphlet Shooting Making Photo

Wakana、Keiko、Hikaru――3人それぞれの“9+ONE”への想いが注がれたソロカット、
未来へと進む姿を切り取った集合カット。じっくりと時間をかけて制作されたツアーパンフレットの裏側をちょっぴりお届けします！

Photo Director's Comment

『Kalafina 9+ONE』のパンフレットは、今回のツアーに込めた意味を投影して形にしていきました。梶浦由記さんが生み出し、創り、Keikoさん、Wakanaさん、Hikaruさんが表現してきた音楽世界を大切にしながら、“10周年という節目に向かう姿”と“原点”“軌跡”、そして“これまでの一歩一歩の積み重ねの先にある未来”を表現しています。

ですから、例えば3人の集合カットで、それぞれが持つ布の色や、その布の形状にも意味を込めています。ちなみに、パンフレット終盤に使用した3人の写真で、“布”がクロスしているカットがあります。それは撮影中にメンバーから出たアイデアです。布がクロスすることによって表わしたいストーリーが、そこに込められているのです。

今回は、ひとりずつに光を当てた作りになっています。制作準備段階から3人それぞれとミーティングをし、それぞれにとっての“Kalafinaでの9年”と“未来”について話を聞いた上で、三者三様のフォトストーリーを描きました。挙がったのは、ターニングポイントであったり、変わったものと変わらないものであったり、時々の想いであったり……。現在と未来に繋がる大切な時間や曲、気持ちについてです。その上でのシューティングですので、メンバーの表情、光の位置や固さ柔らかさ、影の濃淡にいたるまで、その意味を撮影現場でも相談しながら進めました。

ここでこと細かに、どのカットが何を指すのかを解説するのは野暮なので、そこは皆さんの想像にお任せしたいところですが、ただ、インタビューも事前ミーティングを踏まえて、コンセプト立てて行なったので、その中にヒントがあります。

インタビューを読みながら、手にしていただいた皆さんの中でストーリーを描いてもらう、というのも楽しみのひとつではないでしょうか？

第1回

Wakanaと行く! サメ捕獲の旅!

Wakanaといえばサメ、サメといえばWakana!
──と言っても過言ではない(!?)くらい、ファンの皆さんの間では
Wakanaのサメ好きは周知の事実。
この連載は、そんな彼女が日本各地の水族館のサメ(の絵)を
捕獲して回る、熱すぎるサメ愛の記録である。

◆第1回目はまず、東京から!

「品川区にある『しながわ水族館』に行ってきました～。この水族館は、入口にロッカーがあったり、いかにも水族館!という感じのちょっとレトロな雰囲気があってステキでした(*^_^*)　そして、ここには"シロワニ"という種類のサメがいるんです!!　チケットを買う時に、"ちょうど今、イルカのショーが始まるよ"って、スタッフの方が教えてくれたのですが、1分位しか見なかったかも(笑)。でもイルカのプールもしっかりと大きいもので、空とイルカが一緒に見れられるのが良かったです」

◆目的の"シロワニ"、いかがでしたか?

「シロワニは大きくて!　獰猛そうな顔をしているのですが、大人しいんですよ～。いや～かっこ良い～!!　シロワニはサメの中でも大きほうで、水族館にいるものとしてはBIGな部類ですね。これ以上大きいと本当に獰猛に

なっちゃう（笑）。サメはとにかく大きくて、牙がガッとあるのがいかにもサメっぽくて好きです。サメの歯は何重にもなっていて、どんどん生え変わるんですよ。なので水槽には歯が沢山落ちてます。それから、サメグッズも買いました〜！　今は我が家にとてもマッチしてますよ。最初は、サメが好きなだけで、グッズに興味なかったのですが、今や、スマホ置きやティッシュケースや縫いぐるみ……などなど。もーこんなかわいいなんて！」

◆そもそもサメ好きになったキッカケを改めて教えてください。

「映画『ジュラシックパーク』を観て、恐竜の化石を見に行って、クジラやダイオウイカを捕食していたと言われる、太古のサメ"メガロドン"の化石を見た時に"こんな大きいのが海にいたんだ!"とサメの化石に張り付いて見てましたね（笑）。そこから、"生きてるサメ"を見たくて水族館に行くようになりました」

◆なるほど!

「先日、福岡にある『マリンワールド海の中道』にも行ってきたのですが、シロワニは他の魚たちと一緒に水槽に入ってましたよ。ダイバーさんがシロワニに餌をあげようとしても食べなくて。シロワニは身体のわりにそんなに多くは食べないそうです。あと、サメの歯はフォークなんだそうです！　一度噛んだら、離せないようで、突きさす力がすごいんですよ!」

◆『マリンワールド』の年間パスを購入されたそうですね!?

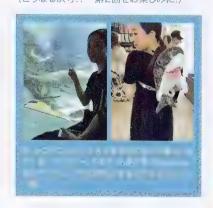
「はい！　詳しくはぜひWakanaのブログを見てください（笑）」

◆そして品川では水族館を満喫したあと、餃子もいただきましたね。

「大森や蒲田のほうは餃子も有名ですからね〜。水族館は涼みに、サメは熱くなりに！　そして、これから水族館と食の組み合わせ、恒例になりそうです。よし次、サメ食べましょう!」

◆えっ!

（どうなる次号!?　第2回をお楽しみに!）

Keiko の美活! Vol.1

キックボクシング編

ここではKeikoが日々取り組んでいる、美容や健康についてレクチャー!
第一回目はキックボクシングのトレーニングジムに密着してきました。
何事にもストイックに取り組む姿をお届けします。

ウォームアップ前に
し[illegible]

今日の状態を確認

マイグローブを装着して準備完了!

ウォームアップスタート! 30秒のミット打ちを3セット。圧巻のスピードと集中力!

ミドルキック!

フロイド･メイウェザーさんのDVDは厳しいトレーニングの励みです!

ハイキック! 体幹と柔軟性が必要です。

あとがき

さて、"Keikoの美活"といった初のコーナーでしたが、如何だったでしょうか♪

そもそもどうして私がフィジカル面を鍛えだしたか…というお話になるんですが、私は元々体が強い方ではなく、Kalafinaの活動をするにあたって自分自身悩んだ時期がありました。体調が優れない日にもお客様に楽しんで頂けるパフォーマンスをしたい、体調が優れない日を減らしていく体力をつけたい、そして一番注目したのが、フィジカル面を鍛える時、嫌でも自分自身と向き合う為、自分の弱さを思い知らされるんです。

そんな弱さを強さに変えるのは自分のメンタルだったりします。

そのメンタル力、集中力の向上はKalafinaの活動をする上で必要だなと思ったんです。

辛い時だって、めげる時だってあるのが人間だから、その瞬間を自分なりの解決法として今の運動があります。食事と一緒で、様々な種類や方法があるんですが、今回は最近始めたばかりのキックボクシングを選びました!! 私も皆さんと同じ一人の人間なので、そのリアルな部分をこのコーナーを通して共有していけたらと思っています!!

◆何がきっかけでキックボクシングを始められたんですか?

ツアー中などは、連日公演だったり、移動日があってライヴ本番だったり、体力面でタフでなければならないこともあって、"有酸素運動"をやらなきゃ!と思っていました。

有酸素運動と言えば"走る"ことが代表的ですが、もともとひざ関節が弱く……私はそれができなくて。有酸素運動と無酸素運動の両方がバランス良く取り入れられるのは、これかなと。

◆毎回、だいたい何時間くらいのトレーニングをしているのですか?

▶ウォームアップ：30秒×3セット。

▶パンチのみのスパーリング ： 2分×3セット。

▶キックミットを使ったスパーリング ： 2分×7セット。

▶トータル10ラウンド!

これと別に体幹トレーニングもあって。だいたい1時間くらいのトレーニングになります。

◆特におすすめのポイントは?

キックは、内腿やお腹のコアの部分など普段使わない筋肉を使うし、体幹がないとふらついてしまいキックできないので、効率良く、楽しく、筋トレができるところでしょうか。

歌うこともストレス発散効果あると聞きますがキックボクシングも発散できます!

◆特に気に入っている内容は?

スピード感があるコンビネーションが好きかなー。"ワンツーフックアッパーストレート"!

◆自分における課題はありますか?

"バテないように"ですかね。"ワンツーフックアッパーストレート"なのか、"ワンツーアッパーストレート"なのか。慣れている動きでもトレーナーからの指示を間違えるときは、集中してないのかな……と。聞いて瞬時に動くので"脳トレ"にもなる!

Keikoのプチ筋トレ講座♥

自宅でも職場でも簡単に取り組める動きをKeiko先生がレクチャー!

基本編～二の腕ひきしめ!

①ダンベルを持ってこぶしを胸に引き寄せる。 ②腕を床と水平に後ろへ動かしながら、肩甲骨を寄せるイメージで引く。

応用編～スクワットも入れて全身に効く!

①足を肩幅に開いて、両腕を肩の高さまで開く。②腕を床と水平に後ろへ動かしながら、屈伸する。

第1章

ブックコンシェルジュHikaruの部屋へようこそ

大の読書好きで知られるHikaruが毎回テーマに沿って、いろんなマンガをオススメしちゃいます。記念すべき1回目は、季節に合わせて“夏”をテーマにお届けします。気になる作品や好きな作品が見つかるかも!?

“夏”といえばこの作品!

夏目友人帳／緑川ゆき
コレットは死ぬことにした／幸村アルト
xxxHOLiC／CLAMP
レーカン!／瀬田ヒナコ

そろそろ夏も本番、ということで、夏の蒸し暑さを少し忘れさせてくれるような、涼しくなるような世界観の作品をチョイスしてみました。

❶まず、ひとつめのオススメ作品は、
「夏目友人帳」緑川ゆき・著

妖怪が見える男の子のお話です。原作は今も連載中の漫画なんですけど、私が観たのはアニメ。この春のアニメで、第6期『夏目友人帳 陸』を放映していて、そこで初めてこの作品に触れました。もともとずっと気になってはいたんだけど、題材が“妖怪”だし、ちょっと怖いお話なのかな、って思っていたのと、長編なので最初から観なければ……と思って構えていて。そしたらレーベルのスタッフさんに「1話完結の話が多いから、どこからでも楽しめるよ」と教えていただいて。それで見始めたら……すごくおもしろかった!

妖怪、あやかしの類って、触れられないもの、怖いものという存在だったんですけど、この作品を知って、あったかいあやかしもいるんだな、とか、なにかするとしても理由があるんだな、とか、そういうことを思えるようになって。勝手に、ただひたすら「怖い」と思っているだけじゃなくなるというか。アニメの6期から入ったので、これから原作も読まねばならぬな!という状態になっています(笑)。

登場人物は主人公の夏目貴志くんをはじめ、みんなステキな人や妖怪なんですけど、夏目くんの自称用心棒であるニャンコ先生がいい! 夏目くんにキツいことを言うんだけど、助けてあげたり、優しかったりしてキュンキュンします♡ あと田沼くんというお寺の子もいいキャラなんです。妖怪が見えないけど感じ取れる能力を持っていて、夏目くんの理解者でもある。いつも夏目くんを気に懸けていて、助けたいと思っていて。気遣いのできる子、いいですよね! この作品では、人間も妖怪も、それぞれ複雑な内面や事情を抱えていたりするんですけど、心底イヤだなと思うようなキャラクターが出てこないのも世界観的なポイントかもしれない。

思わずじーんとしてしまう感動的なエピソードやほっこりするシーンがあって、私のように「妖怪ものとかちょっと怖そう」と思っている人に、怖いだけじゃないんだよ、と思ってもらえるような、そんな作品です。

❷ふたつめのオススメは、
「コレットは死ぬことにした」幸村アルト・著

「花とゆめ」で連載中のマンガで、ジャンルはファンタジーになるのかな。ヒロインである薬師のコレットが、ひょんなことから、冥府……死んだ後の世界の王であるハデス様と出会って、交流していく中で成長していく物語です。コレットが現世と死後の世界を行き来しながら話が進むのが新鮮で。自分の住んでいる街でも事件が起こるし、冥界でも事件が起こるのを、解決していくんです。コレットはなにに対しても一生懸命な女の子で、その姿勢がすごいなぁって。冥界ではハデス様をはじめ、ガイコツとか、人間である自分とは全然違う種類の存在が出てくるんだけど、それを差別しないんですよ、コレットは。冥府のガイコツのことも、ハデス様のことも同じように愛して、大切に思っていて。自分と違うから、ということで否定したりはしないんです。ハデス様は冥府の王として天界や冥府のモノたちからもちょっと敬遠されているんだけど、コレットは「彼は優しい人だ」と、自ら会いに行ったりできる。ちょっとおてんばなところはあるけど、相手のことをまっすぐに思いやって行動できるコレットとハデス様がお互いに成長していく物語、オススメです!

❸3作目はCLAMP作品です!
「xxxHOLiC」「xxxHOLiC・戻」CLAMP・著

やっぱりCLAMP作品は外せません! 本

当に必要としている人しか足を踏み入れられない、“対価さえ払えばどんな願いも叶うミセ”を軸に展開していく、人生のお話です。そのミセを訪れるお客様は心に闇を抱えている人が多くて。その闇を浄化していくまでのエピソードが連なってるんですけど、普段自分が生活している中で、「あぁ、こういうこと思っちゃうことってあるよね……」って感じるようなことや、あまり見たくない感情を、物語の中で暴いて見せてくる。ゾクっとしてしまうところがあります。“願いを叶えるためには対価が必要”という基本設定を含め、嫉妬や妬み、愛情や憎しみや執着という人間の内面を描いていて、ある種“教え”のような読み方もしている作品ですね。基本的に世界観はオカルトファンタジーなんですけど、リアリティもちゃんとある。自分に寄り添ってもらえる作品のひとつです。

「xxxHOLiC」のキャラクターも全員好きなんですが、やっぱり侑子(ユウコ)さんが一番好き。運命を変えることができるくらい強大な力を持つ魔女なんだけど、いつもは気まぐれでおちゃらけていてわがままで、主人公の四月一日(わたぬき)くんを振り回してる(笑)。でも愛情深くて、決意や実行力を秘めていて……憧れます。物語の途中で、侑子さんから四月一日くんにある役目が受け継がれていくんですけど、そういう流れも含めて、ぜひ最初の「xxxHOLiC」から読んでいただきたいシリーズです!

❹そして最後の作品は、
「レーカン!」瀬田ヒナコ・著

最後も、霊関係の作品を(笑)。原作マンガは今も連載中の4コマ漫画なのですが、2~3年前くらいにTVアニメで観て、おもしろいなぁって思ったのがきっかけです。霊感体質の女子高生・天海響ちゃんや家族、友人や霊たちとの交流を描いた作品なんですけど、登場人物の半分以上は霊なんじゃないか?っていうくらい、ふつうに幽霊が出てくるんですよ。コメディタッチなので、ぜんぜん怖くは描かれていないんですけど(笑)。お侍の幽霊、地縛霊のおじさん、コギャルの幽霊、猫の幽霊とか、みんな個性的で。響ちゃんが人間幽霊問わず、とても親切で礼儀正しい子なので、霊が集まってきちゃうんですね。その中で、霊感のない普通の友達ともいろんな事件を通じて交流が生まれたり、絆が深まったりして。基本的にはコメディなんですけど、たまにヘヴィなエピソードや感動的なエピソードが挟まっていて、その塩梅もいい感じなんです。特に好きなエピソードは第1話の、響ちゃんの友達が子供たちの幽霊と一緒に公園で遊んであげるストーリー。友達には霊感はないんですけど、その時だけは見えて一緒に遊んであげるんです。あの話は本当によかったなぁ。

……以上、Hikaruによる夏に読んでほしいオススメ4作品。妖怪や幽霊や冥界、そして人間の心の闇や異世界など、日常から離れたちょっとオカルトな設定の作品ばかりを選んでみましたが、どの作品も、触れた後に優しい気持ちになれるものばかり。すこしでも興味を持っていただけたら嬉しいです。

パワーをもらえる作品

こぼれネタ

夏バテ対策に、パワーみなぎる4タイトルを!

ハイキュー!!/古舘春一
ちはやふる/末次由紀
恋文日和/ジョージ朝倉
田中くんはいつもけだるげ/ウダノゾミ

◆「ハイキュー!!」古舘春一・著

アニメを観てから原作漫画を読み始めてハマりました。高校バレーボールの部員たちの成長を描いたスポ根ものなんですけど、主人公と同世代の学生さんはもちろん、大人が読んでも面白い!　この物語には、最初から出来上がっているキャラクターがいないんですよ。主人公も、チームメートもライバルも、先生もコーチもやっていくなかで1個2個3個……と壁を乗り越えて、個人としてもチームとしても強くなっていく作品なんです。キャラがひとりひとり個性的で立っているし、どのチームも応援したくなる魅力があります。読んでいて、「私も頑張んなきゃ!」って思える作品です。

◆「ちはやふる」末次由紀・著

競技かるたの世界を描いた青春+スポ根!　こちらは甘酸っぱい恋愛模様も描かれているので、そういう意味でもステキです。ヒロインだけではなくて、周囲のキャラクターの葛藤や恋心もていねいに描かれてるんですよ。全員が目標に向かって一生懸命に励んでいる姿にパワーがもらえます。

◆「恋文日和」ジョージ朝倉・著

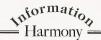
ジョージ朝倉さんの作品がすごく好きなんです。一番はじめに読んだのは「ピース　オブ　ケイク」でした。がっつりとした重厚な読み応えの作品が多いので、なかなか気軽にオススメできないんですけど、「恋文日和」はその中でもライトな作風で、オムニバス形式でお話が進むのでとっかかりやすそうですし、私としてもみなさんに奨めやすいな、という(笑)。ジョージ朝倉さんの作品は、描かれる絵そのものからパワーをもらえるんです。溢れ出てくるエネルギーがすごい!　まず「恋文日和」に触れていただいて、作風や絵柄が自分に合うかどうかを確認していただいてから、Hikaruと一緒にどんどん足を踏み入れていっていただけるといいかな、って。ジョージ朝倉入門編としてオススメします!

◆「田中くんはいつもけだるげ」ウダノゾミ・著

主人公・田中くんが「どれだけけだるく過ごせるか」を追究している姿勢に感動すら覚える作品です。誰にもなにも言われたくないからこそ、空気のように過ごしたいからこそ、「テストで勉強をしない」とか「1番を目指して勉強する」ではなく「真ん中を目指す」という。褒められもせず怒られもしない真ん中をとるために“頑張る”っていう(笑)。ある意味、けだるげのプロ。なにをするにもひとつ揺るがない信念があれば、そこだけを見ていける、そのために頑張れる、ということを思い出させてくれる作品です。

本日のおすすめリスト

「テーマ:“夏”といえばこの作品!」	
夏目友人帳	緑川ゆき
コレットは死ぬことにした	幸村アルト
xxxHOLiC	CLAMP
レーカン!	瀬田ヒナコ
「テーマ:パワーをもらえます!」	
ハイキュー!!	古舘春一
ちはやふる	末次由紀
恋文日和	ジョージ朝倉
田中くんはいつもけだるげ	ウダノゾミ

Harmony

Music

NHK「歴史秘話ヒストリア」オープニングテーマ「storia」, エンディングテーマ「into the world」
TVアニメ「活撃 刀剣乱舞」エンディングテーマ「百火撩乱」

Live

世界遺産劇場 Extra -日光東照宮- 国宝陽明門平成の大修理竣工記念 "Kalafina with Strings"
2017年 9月30日(土) 日光東照宮 五重塔前、野外特設ステージ

世界遺産Special LIVE -興福寺- 中金堂再建記念 "Kalafina with Strings"
2017年10月8日(日) 興福寺 東金堂前庭、野外特設ステージ
2017年10月9日(月・祝) 興福寺 東金堂前庭、野外特設ステージ

Kalafina Acoustic Tour 2017 ~"+ONE"with Strings~
2017年11月7日(火) 神奈川・ハーモニーホール座間
2017年11月13日(月) 山口・周南市文化会館
2017年11月15日(水) 広島・広島文化学園HBGホール
2017年11月22日(水) 北海道・札幌市教育文化会館 大ホール
2017年11月26日(日) 兵庫・和田山ジュピターホール 大ホール
2017年11月27日(月) 岡山・倉敷市民会館
2017年12月2日(土) 宮城・電力ホール
2017年12月3日(日) 東京・東京オペラシティコンサートホール
2017年12月9日(土) 富山・富山県民会館
2017年12月13日(水) 名古屋・愛知県芸術劇場 大ホール
2017年12月14日(木) 福岡・福岡シンフォニーホール

"Kalafina with Strings"Christmas Premium LIVE 2017
2017年12月19日(火) 大阪・ザ・シンフォニーホール
2017年12月20日(水) 大阪・ザ・シンフォニーホール
2017年12月22日(金) 東京・Bunkamura オーチャードホール
2017年12月23日(土・祝) 東京・Bunkamura オーチャードホール

デビュー10周年を迎えるKalafinaの、10周年記念ライブが決定!!
2018年1月23日(火) 日本武道館

Event

Kalafina "Harmony" ~Talk EVENT vol.1~
2017年9月1日(金) 中野サンプラザ
2017年9月9日(土) NHK大阪ホール
Kalafina "Harmony" ~Premium LIVE vol.1~
2017年9月8日(金) ビルボード大阪
2017年9月17日(日) ビルボード東京

CD

Single「百火撩乱」2017年8月9日(水) 発売
Single「into the world / メルヒェン」発売中
Album 谷村新司 45th 記念アルバム「STANDARD~呼吸~」発売中
※特別ボーナス・トラック楽曲「アデリーヌ」にKalafinaがバッキング・ボーカルとして参加

Blu-ray & DVD

OVA「クビキリサイクル 青色サヴァンと戯言遣い」
エンディングテーマ「メルヒェン」
OVA第1巻~6巻発売中
【第7巻以降発売予定日】
第7巻:8月30日, 第8巻:9月27日
「Kalafina Arena LIVE 2016 at 日本武道館」発売中
「Kalafina LIVE TOUR 2015~2016 "far on the water" Special FINAL at 東京国際フォーラム ホールA」発売中
「Kalafina LIVE THE BEST 2015 "Red Day" at日本武道館」発売中
「Kalafina LIVE THE BEST 2015 "Blue Day" at日本武道館」発売中

Radio

bayfm『Kalafina倶楽部』
毎週火曜日 24:00~24:27 ※O.A終了後ストリーミング放送あり
http://bayfm78.com/kalafina/index.htm
kalafina@bayfm.co.jp

より詳しい情報や新たな更新情報はサイトをご覧ください
▶Kalafina Official Web Site→http://www.kalafina.jp ▶Kalafina Official blog→http://lineblog.me/kalafina/
▶Kalafina Official Live Site→http://www.kalafinalive.com ▶Kalafina Staff Official twitter→https://twitter.com/kalafina_staff
▶Kalafina Official Fan Club「Harmony」→https://kalafina-fc-harmony.jp/
▶Kalafina Official Fan Club「Harmony」Staff Oficial twitter→https://twitter.com/Harmony_FanClub